

(様式1)

「地域・企業等と連携した PISA 型読解力向上事業研究指定校」実績報告書 (1 年次)

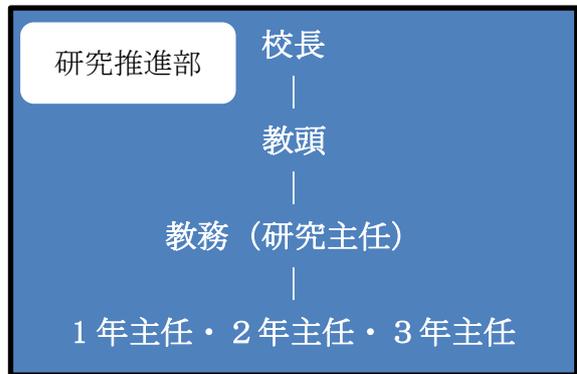
1 学校名等

学 校 名	舞鶴市立白糸中学校				校長名	廣瀬 直樹
研 究 主 題	P I S A 型読解力と非認知能力の向上を図る ～P I S A 型読解力ルーブリックの作成を通して～					
研究の目的	「予測が困難な時代」を主体的に生き抜くためには、適切に情報を読み取り、活用する力 (P I S A 型や非認知能力) の育成が求められるため、本研究主題を設定し、「評価・熟考する能力」の視点を加え、文章を評価したり、根拠を明確にした自分の意見を説明したりすることができる生徒の育成を目指す。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	4	4	4	2	1 4	4 0
児 童 生 徒 数	1 4 8	1 4 3	1 3 5	1 0	4 3 6	

2 研究校の概要

【研究体制】

- ・ 校長(渉外)
- ・ 教頭(渉外・研究計画等)
- ・ 教務※研究主任 (立案・資料作成・提案等)
- ・ 各学年主任 (具体的な探究活動計画等)



3 主な研究活動 (時期や内容等)

(1) ルーブリックの作成

「総合的な学習の時間」ルーブリック案の作成 (R 2 年 3 月～5 月)

令和3年度 舞鶴市立白糸中学校 総合的な学習の時間 ルーブリック



資質・能力	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
【理 解】 文章や図表から様々な情報を読み取り、正しく理解する力	文章説明などが無い図表を見て、その図表の主たる目的や示している内容を分析し、正しく読み取ることができる。	文章内容や図表が示している内容を相互に関連づけながら、ある物事に関する因果関係などを正しく読み取ることができる。	アンケートをはじめとする調査の主たる目的を理解するとともに、その結果を示す図表などを正しく読み取ることができる。	Web ページをはじめ文章構成がきちんとされていない文章を読み、その内容を正しく読み取ることができる。	文章構成がきちんとされている説明文や物語などを読み、その主題や概要などを正しく読み取ることができる。
【利 用】 情報の分析、整理を行うために思考ツールや図表を利用する力	課題解決に向けた情報の分析・整理するために適切な思考ツールを自ら選択し、正しく利用することができる。	課題解決に向けて指示された思考ツールを利用し、情報の分析・整理を正しく行うことができる。	ある物事に関する数値情報を分析・整理するために、図やグラフなどを利用することができる。	Web ページをはじめ文章構成がきちんとされていないものから必要な情報を見つけ、マッピングを利用して、図式化することができる。	文章構成がきちんとされている説明文や物語から具体的に指示された情報を抜き出し、マッピングを利用して、図式化することができる。
【評価・熟考】 自身の経験や知識に基づき様々な情報の内容・形式を評価し、十分に考える力	文章内容や図表が示す情報に対して、自身の知識と経験を関連づけ、その真偽性を確かめるために思考することができる。	文章内容や図表が示す情報に一部誤りがあるという情報があれば、自身の経験や知識に基づいて、その真偽性について考えることができる。	文章構成がきちんとされている説明文にある筆者の主張に対して、自分の考えを持ち批判的に読みができる。	イラストや図表を見て、その構成が表現方法として妥当であるかを考えることができる。	文章中に用いられている言葉や単語が内容を示す表現方法として妥当であるかを考えることができる。
【論 述】 他者へ配慮しつつ、文章や図表を用いて、根拠を示し、自身の考えを述べる力	自身の考えを示す上で多角的な視点で根拠と論拠を示すとともに、伝える相手に応じて、適切な表現や図表を用いて伝えることができる。	自身の考えを示す上で多角的な視点で根拠と論拠を示すとともに、文章だけでなく、図表などを用いて伝えることができる。	自身の考えを示す上で根拠と論拠を用いて、伝えることができる。	まとまりのある文章構成で自身の考えを示すことができる。	文章構成がまとまっているが、自身の考えを示すことができる。

「常に新たに」の時間

ルーブリック案の改善 完成・活用（R3年6月～）



令和3年度 舞鶴市立白糸中学校「常に新たに」ルーブリック

新

資質・能力	レベル4 (AA)	レベル3 (A)	レベル2 (B)	レベル1 (C)	※レベル1 (C)
【理 解】 グラフと文章を関連させ、データを読み取れる力	複数のグラフと文章を対応させ、正しくかつ多角的にデータを読み取ることができる	複数のグラフと文章を対応させ、正しくデータを読み取ることができる。	1つのグラフと文章を関連させ、データを読み取ることができる。	1つのグラフと文章が示す内容をそれぞれ理解することができる。	1つのグラフと文章が示す内容を理解できない。
【利 用】 必要な情報を伝えるための図表を作成する力	集めたデータをもとに、より効果的なグラフと文章を作成することができる。	集めたデータをもとに、適切なグラフと文章を作成することができる。	集めたデータをもとに、1つのグラフを作成することができる。	1つのグラフを作成することができる。	1つのグラフを作成できない。
【評 価 (信憑性)】 様々な情報の内容を評価する（見極める）力	グラフと文章が示す内容を多角的かつ適切に評価して（見極めて）いる。	グラフと文章が示す内容を適切に評価して（見極めて）いる。	グラフと文章が示す内容を評価して（見極めて）いる。	グラフと文章をそれぞれ評価している。	グラフと文章が示す内容を評価（見極めて）いない。
【熟考・論述】 文章や図表を用いて根拠を示し、自身の考えを発信する力	文章や図表を適切に用いて根拠を示し、説得力のある自身の考えを相手にわかりやすく発信できている。	文章や図表を適切に用いて根拠を示し、自身の考えを相手にわかりやすく発信できている。	文章や図表を用いて根拠を示し、自身の考えを発信できている。	文章や図表を用いて、自身の考えを発信できている。	文章や図表を用いて根拠を示し、自分の考えを発信できない。

(2) 各学年の活動

「第1学年」

探究入門「ふるさと学習」

- ・舞鶴の自然、産業、歴史文化等を学び理解を深めた。
- ・課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ表現の過程を学んだ。(探究活動)
- ・探究活動の「型」を学ぶことで、2年目、3年目の活動につながるため、今年度の学び方を使って、来年度はより内容が充実する学びへとつなげる。



「第2学年」

探究基礎から発展「舞鶴の課題解決学習」

- ・地域や企業と連携し、舞鶴の課題をデータ等から読み取り、課題解決に向けグループで探究活動をした。
- ・グループで課題解決に向かうからこそ、全ての生徒が主体的に取り組むことと、対話による深い学びにつなげることが大切だという生徒の気づきが見られた。



「第3学年」

探究応用「個々に課題（問い）を設定し課題解決」

- ・個別に卒業研究論文を作成した。
(iPad を活用し、各自 word で作成)
- ・高校の総合的な探究の時間に繋ぐために、学びのサイクル（課題設定→探究→解決→新たな課題）に取り組んだ。
- ・課題設定に苦慮する場面もあったが、自分で設定した課題だからこそ、主体的に解決しようとする姿が見られた。



※各教科においても「常に新たに」のルーブリックを活用し PISA 型読解力の向上に向け取り組んだ。

(3)「教師による企業・地域連携」

- ・10月6日(水) P I S A 型読解力育成事業打ち合わせ(府教委、局、市、学校)
- ・10月19日(火) オムロンソーシャルソリューション(小川さん)と学校の打ち合わせ
- ・当初計画では11月、12月頃に先進地訪問(候補:戸田市・さいたま市・東京都方面)を予定していた。年度当初から先方の教育委員会やオムロンソーシャルソリューション(東京)と連携を図っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により延期・調整が続き、1月、2月にも訪問を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、本年度中の先進校訪問は断念せざるをえなかった。

4 今年度の研究の成果と検証(児童生徒、教職員、学校、家庭・地域社会の変容等)

- ・特に3年生の個別の題材設定時(卒業研究論文作成)に、自分自身の課題に向き合い、題材を熟考して自らが設定することを重視した。そのことでその後の学習において、より主体的に学ぼうとする場面が多々見られ、様々なアイデア(アンケートの実施等)が生徒から出て、自ら考え学ぼうとする態度が見られた。以前は、課題設定などはある程度の教師側からの方向性や提案からの自己決定・学習だったが、時間を要するが初めの段階で自己選択・決定し、自己の課題に向き合わせることでその後の探究活動で上記のような変容が見られた。
- ・I R T の結果を受けて、各学年で「学年別の教科の結果と学習方略・非認知能力との相関図」を基に校内研修会を行った。その中で、特に学習方略の「柔軟的方略」に課題があることが分かった。今後、探究活動において成果の見られた、教師が初めから学習の方向性や提案をしない手法も取り

入れ、自己の状況や学習方法を自ら振り返る時間を確保し、より自分に合った学習方法を自分で選択できるよう助言していく。

5 来年度の研究構想

「教員の動き」

- ・ オムロンソーシャルソリューション（連携企業）との課題解決の実践に向けた連携及び協議
- ・ 先進地訪問（戸田市・さいたま市・東京都方面）…PISA型読解力、IRT、非認知能力関係
- ・ IRTの比較・分析（2021年度と2022年度の対比・検証）
- ・ 作成が必要なワークシートの確認および作成者の確定

「生徒の動き」

- ・ 課題に対する取り組み及び実践発表
- ・ 地域・企業連携し課題設定と解決の実践「体験及びインタビュー・検証・課題解決に向けて」
- ・ 企業へ実践発表、企業から生徒にプレゼン